

★漢方あれこれ★

◆病気とは◆

「気」のはなし

太田 順康

何らかの原因で「気」が変調を起して病むのが「病気」です。東洋医学は「気」の医学と言われて、「気」を第一に考えます。

「気」とは何でしょう？

身体の中をぐるぐる巡って、生命現象に関わっているものを、東洋医学では「気・血」で現わしています。この両者が経絡という道筋を巡って病気に抵抗したり、身体を養ったりする仕事をしています。「気」は衛気とも云われ外から来る邪気（病気の元）から身体を守り、「血」は榮血とも云われ身体の原気を養っています。血液やリンパなど体液及び体液の循環を云います。

「気」の付く言葉で私たちが日常使う言葉を見ると、空気、天気、殺気、気分、気が乗らない、気が合う、など、血と違つて形がなく目に見えない物で、それらの働きで、その存在が判るものを云います。

人体の「気」は、全身を巡り、肉体の成長、生命力の維持、精神活動、外邪に対する防衛、各内臓器の働きの調整、自然治癒力の働きなどを行っています。また「血」などの体液の循環も「気」の働きによります。このように身体にとって最も重要なものが「気」です。だから「気」が不調になると「病気」になるのです。

「気」の変調による症状

- ・精神症状、知覚異常、機能亢進感、ガスの動揺・停滞感、蕁麻疹などの腫脹など。
- ・気の流れが異常に動的になる、興奮、のぼせ、動悸、嘔気、呼吸促迫、お腹がゴロゴロなる、オナラなど。
- ・気の流れが停滞する、気鬱、心下の痞え、腹満、浮腫、腫脹など。

次のような症状があると、「気」の変調があると考えて薬方を考えます。

- ①ガス=腹満、腹鳴、おなら、げっぷなど
- ②腫脹=浮腫、局所てきな腫脹など
- ③呼吸症状=咳、喘、嘔、噎、呼吸困難、呼吸促迫、過呼吸など
- ④頭の症状=めまい、頭痛、頭重、のぼせ、など
- ⑤拍動亢進=動悸、心悸亢進、お腹、心下、コマカミなどでトクトク拍動する、など
- ⑥精神症状=驚く、恐れる、胸がもやもやす、気鬱、気が晴れない、など
- ⑦停滞感=痞え、麻痺、など

こんな時には、紫蘇葉、薄荷葉、桂皮、など香りの良い生薬を中心とした薬方が使われます。

No.16半夏厚朴湯やNo.70香蘇散などです。 (つづく)



★秋が訪れ、さわやかなお天気が多くなりました。8.9月の大雨で、道が崩れたりしているところがあります。気をつけながら、ゆっくり登りましょう。

時間は、10:30 からです。

3日(金) 10日(金)

24日(金) 31日(金)

お知らせ

§ 漢方相談日

(担当 太田順康：日本漢方交流会認定漢方終身師範。岐阜県漢方研究会会長、岐阜医科大学「漢方学」講師)

今月の漢方相談日は、下記のとおりです。

6日(月) 20日(月) 27日(月)



新刊!

太田先生の

「くらしの
薬草と漢方薬」

ハーブ・民間薬・生薬

新日本法規出版
B5版・総頁382頁
価格 3,300円+税

§ 10月の休診日

13日(月) 体育の日 16日(木) 17日(金)

§ 今年度の健診予定

お手元の受診券をご持参の上、お越しください。

◎特定健康診査：6月1日～10月31日

<対象者>

- ・岐阜市国民健康保険加入者
- ・1939(昭和14)年11月1日

～1975(昭和50)年生まれ

◎ぎふ・すこやか健康診査：

9月1日～11月30日

<対象者>

- ・後期高齢者医療制度に加入の岐阜市民の方